

磐梯山 平成 18 年（2006 年）年報

火山活動評価：静穏な状態

地震活動、噴煙活動は低調な状態で、地殻変動に特段の変化はなく火山活動は静穏に経過しました。

火山情報

火山情報の発表はありませんでした。

概況

・地震活動（表 1、図 2～3、図 5～図 6）

火山性地震は少ない状態が続いています。
火山性微動は観測されませんでした。

・噴煙活動（図 4）

遠望観測（監視カメラ：山頂の北約 7km）では、山体北側火口壁の噴気の高さは 100m 以下で低調な状態が続いています。

・地殻変動（図 7～図 8）

山体周辺で行っている GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

・熱活動（図 9～図 10）

10 月 26～27 日に、沼の平（V）及び火口壁付近（Y）の地表面温度分布及び噴気温度等の観測を実施しました。その結果、昨年（2005 年 10 月）の現地観測結果と比較して地熱地帯・噴気温度の状況に変化はなく、静穏な状態であることを確認しました。

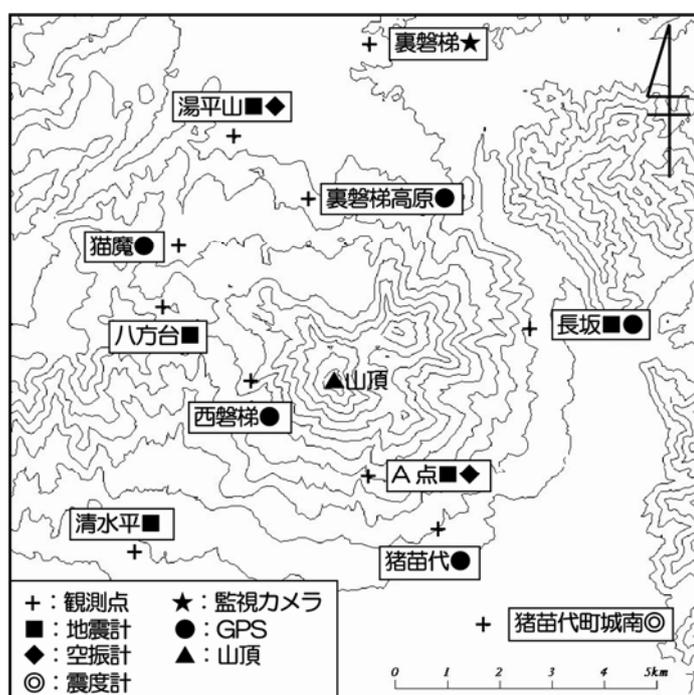


図 1 磐梯山 観測点配置図

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

表1 磐梯山 2006年火山性地震・微動の月回数(基準点:図1のA点)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	13	1	17	9	26	41	29	70	7	20	8	8
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

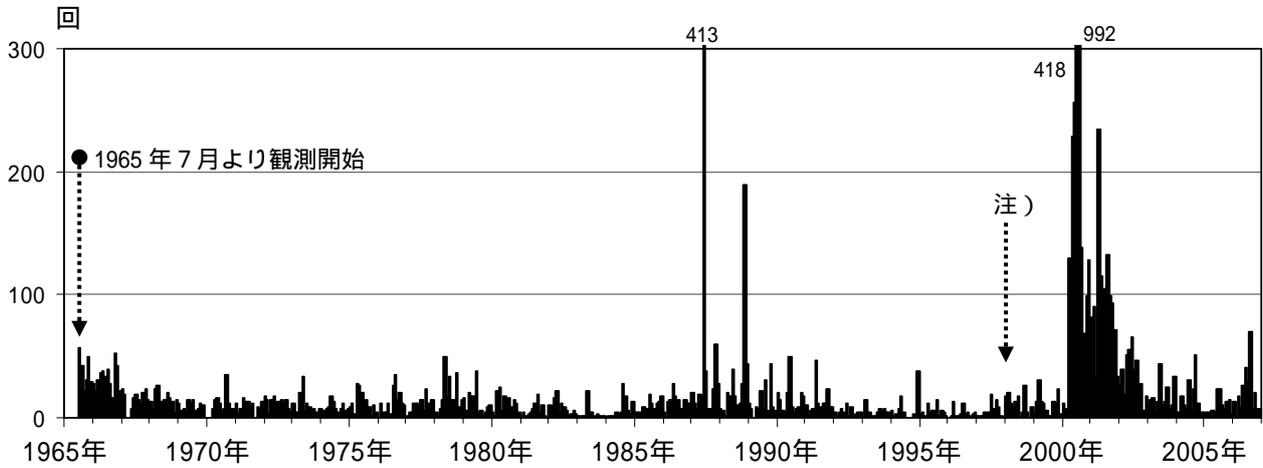


図2 磐梯山 月別地震回数(1965年7月~2006年12月)

注) 1998年より検測基準をS-P5秒以下からS-P2秒以下に変更しました。
 2000年10月に、基準観測点(A点)を西へ約100m移設しました。
 (山頂からの距離(南南東約2km)はほぼ同じです。)

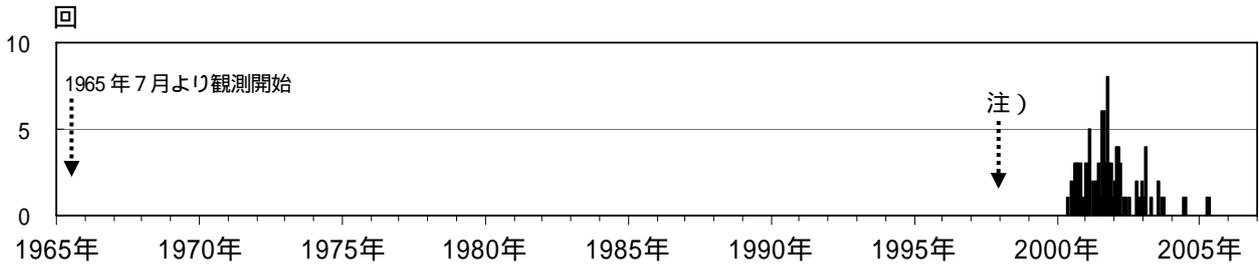


図3 磐梯山 月別微動回数(1965年7月~2006年12月)

注) 2000年10月に、基準観測点(A点)を西へ約100m移設しました。
 (山頂からの距離(南南東約2km)はほぼ同じです。)

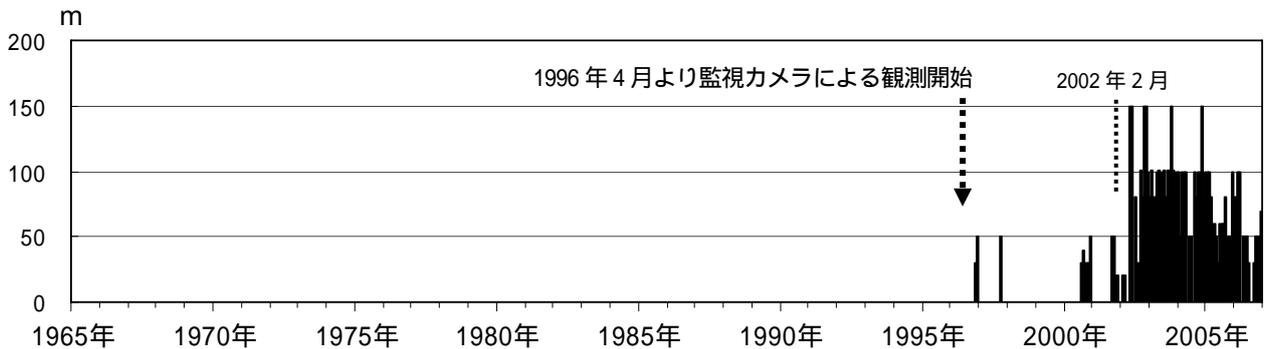


図4 磐梯山 月最大噴気高(1996年4月~2006年12月)

2002年2月以前は定時(09時,15時)及び随時観測による高さです。
 2002年2月以後は全ての時間を収録データから観測した高さです。

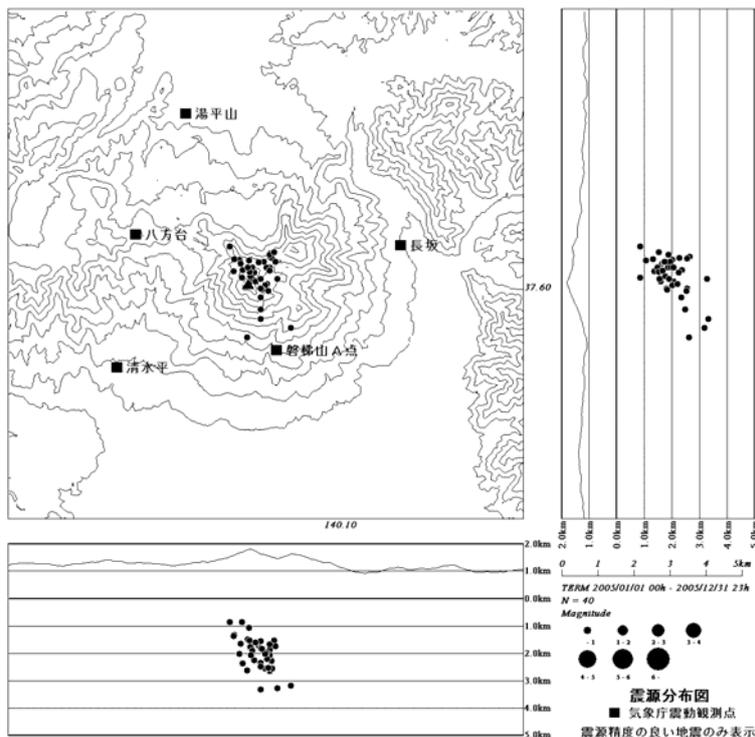


図5 磐梯山 震源分布図(2005年)
震源精度の良い地震のみ表示しています。

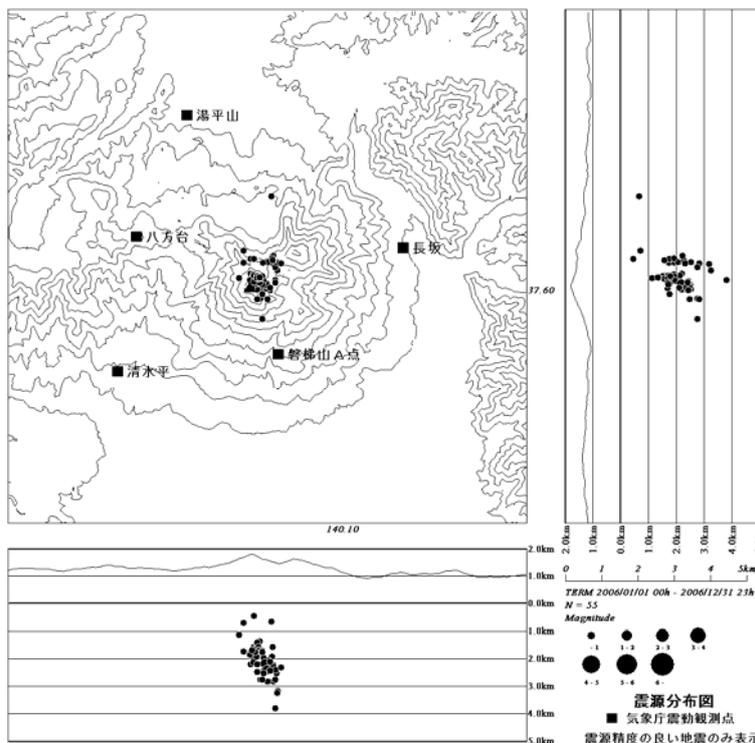


図6 磐梯山 震源分布図(2006年)
震源精度の良い地震のみ表示しています。

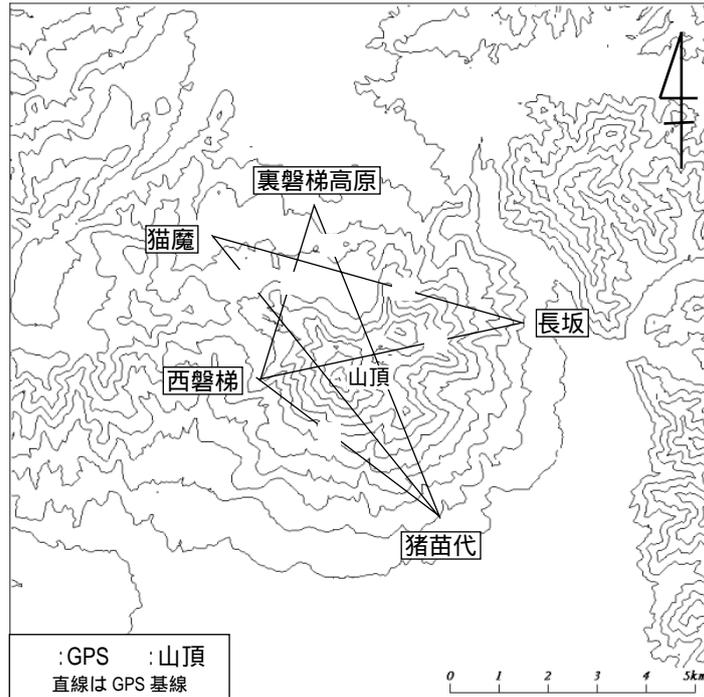


図 7 磐梯山 GPS 観測点配置図
GPS 基線 ~ は図 8 の ~ に対応しています。

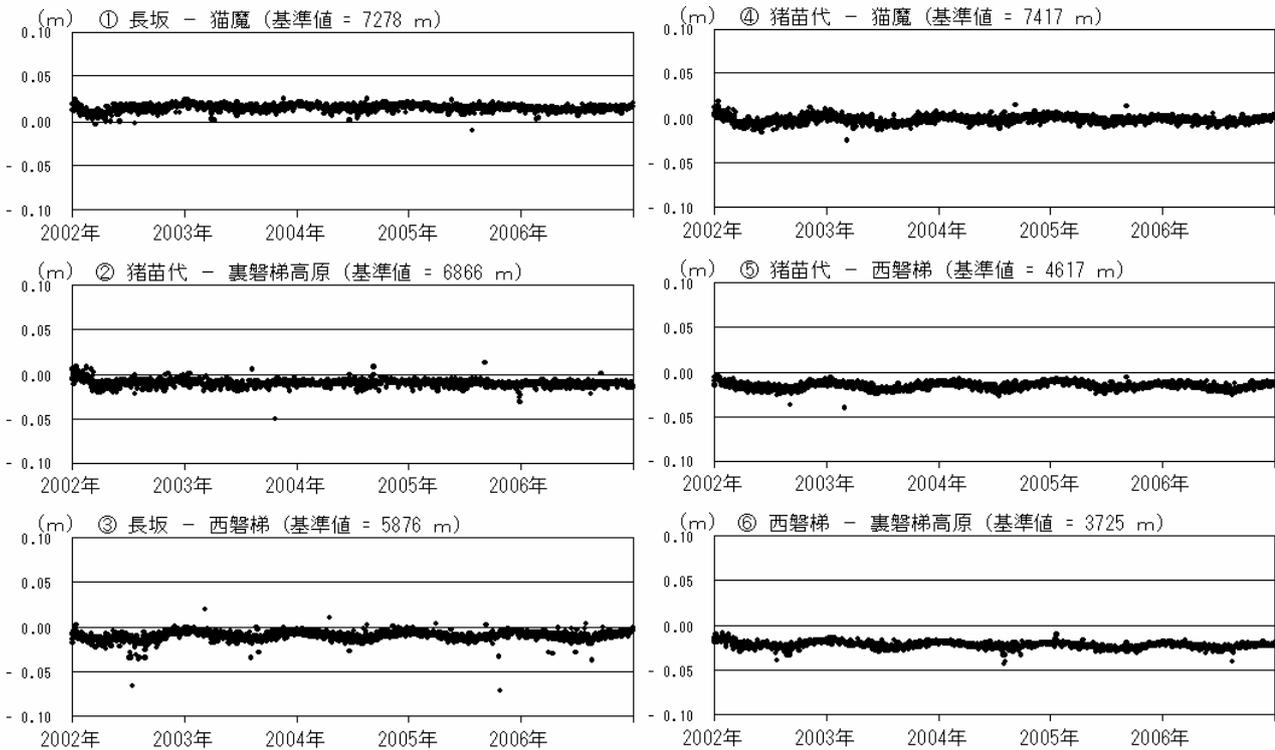


図 8 磐梯山 GPS 基線長変化図 (2002 年 1 月 ~ 2006 年 12 月)
~ は図 7 の GPS 基線 ~ に対応しています。

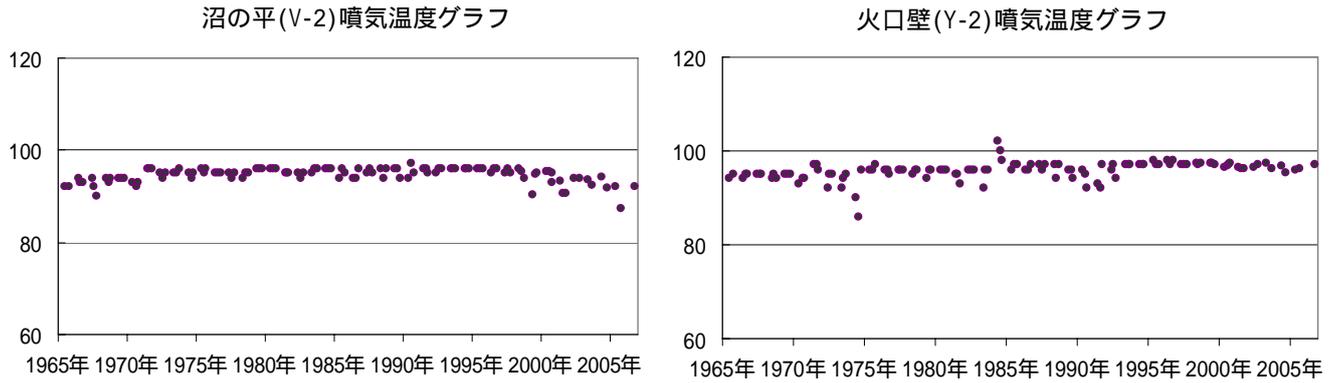


図9 沼の平 (左: V-2) と火口壁 (右: Y-2) の噴気温度変化

(データ期間: 1965年7月~2006年11月)

沼の平 (V-2) 及び火口壁 (Y-2) の噴気温度は、1965年7月の観測開始以降、ほぼ一定しています。

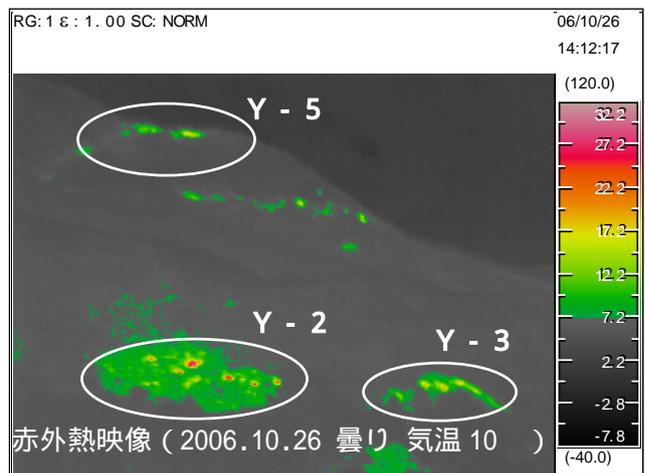
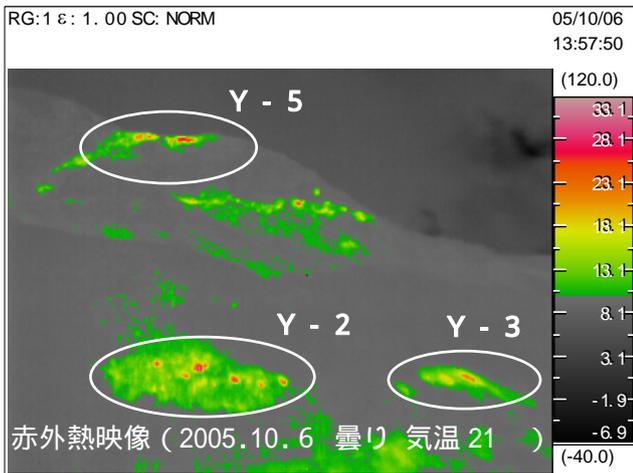
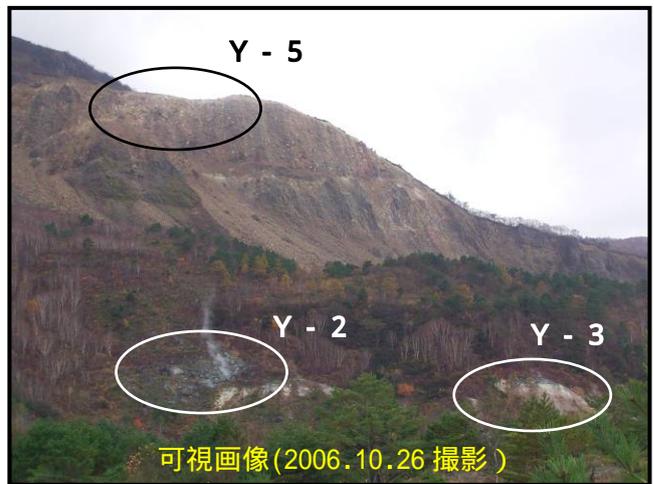
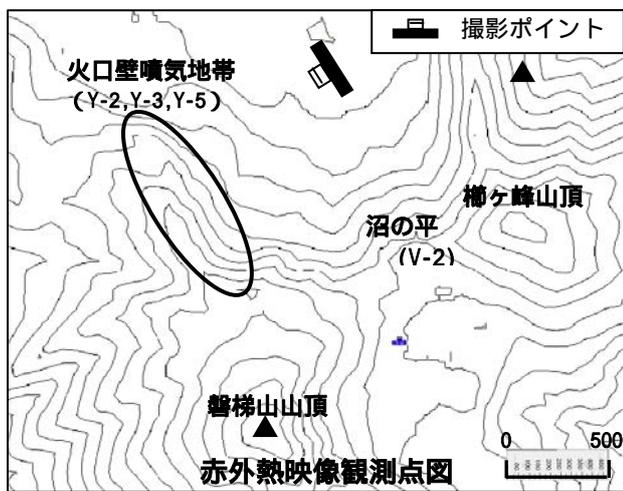


図10 火口壁噴気地帯 (Y-2,3,5) の可視画像と赤外熱映像解析図

10月26~27日に、沼の平 (V) 及び火口壁付近 (Y) の地表面温度分布及び噴気温度等の観測を実施しました。その結果、昨年(2005年10月)の現地観測結果と比較して地熱地帯・噴気温度の状況に変化はなく、静穏な状態であることを確認しました。

赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器で、熱源から離れた場所で測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。